

経営比較分析表（平成30年度決算）

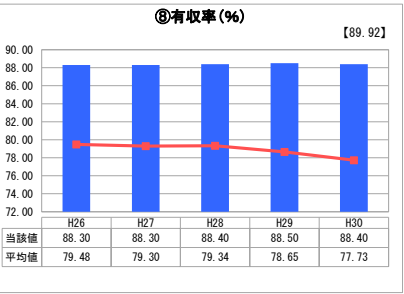
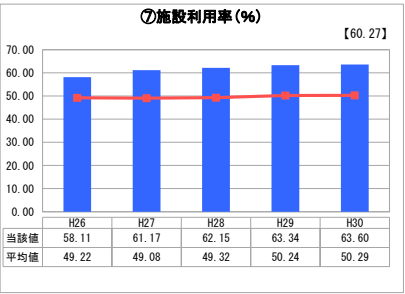
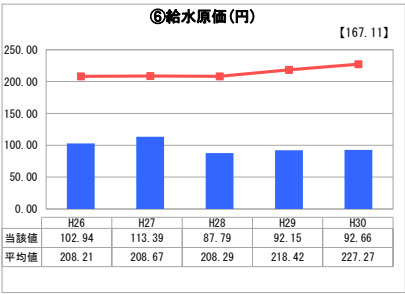
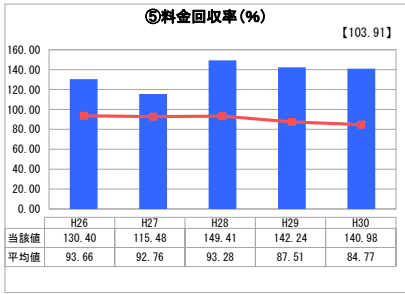
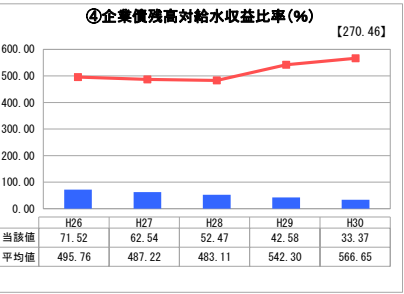
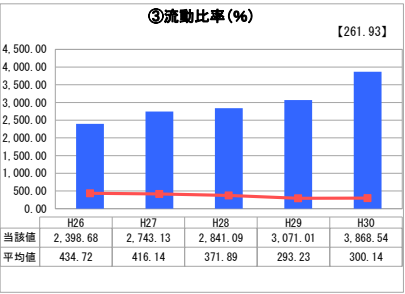
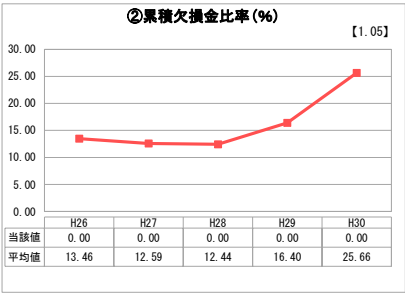
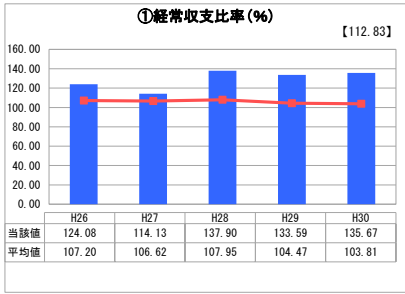
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	96.21	35.39	2,571	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,284	144.21	99.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,048	4.02	1,255.72

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、平成26年度から企業の給水収益が増加したことで上昇している。平成29年度は、委託費用の増加で前年度を若干下回ったが、平成30年度はまた上昇する結果となった。

流動比率については、会計制度の変更に伴い、類似団体の数値との差が大きくなった。

企業債残高対給水収益比率については、平成26年度から、企業の給水収益が増加したことで減少の要因となった。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることが要因としてあげられる。

料金回収率は平成28年度から高い数値を保っており、その要因については、平成26年度から企業の給水収益が増加したことで、供給単価が減少したことがあげられる。

給水原価については、平成28年度に減少したが、平成29年度は、経常費用の委託料が増えたことで増加し、平成30年度も同様に増加となった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。

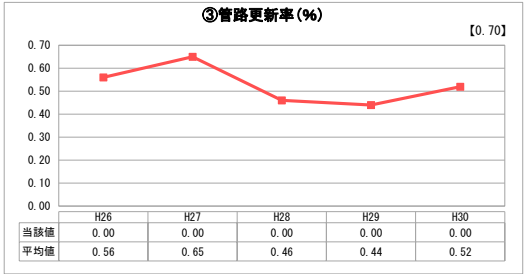
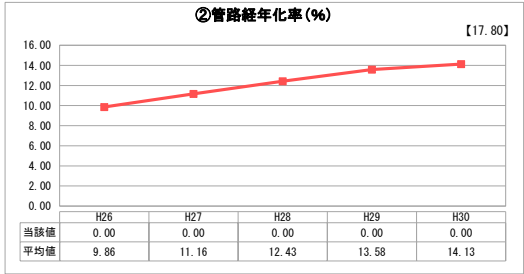
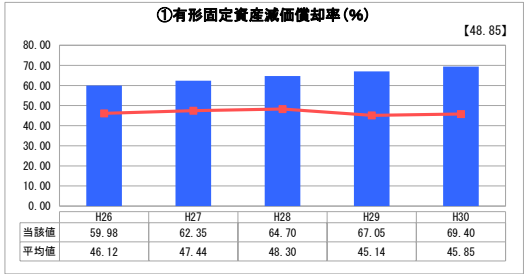
施設利用率については、平成26年度から、企業の給水量が増加したことにより上昇している。類似団体と比べて、高い水準となっている。

有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移している。類似団体より高い水準となっており、今後も適正な維持管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、上昇傾向で推移しており、類似団体と比べて、高い数値となっている。保有資産の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全性に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管路等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。

経営比較分析表（平成30年度決算）

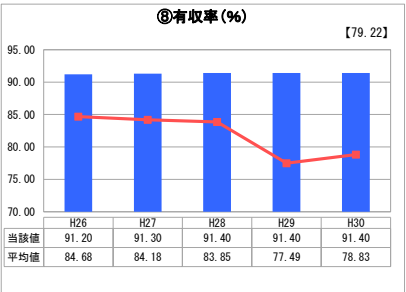
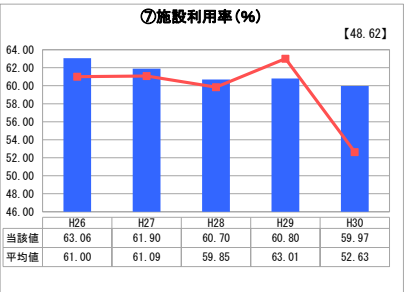
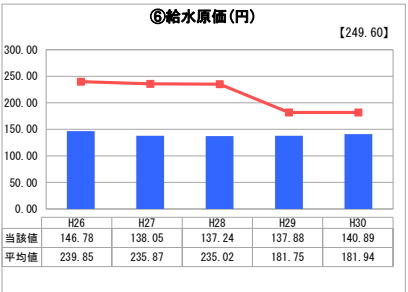
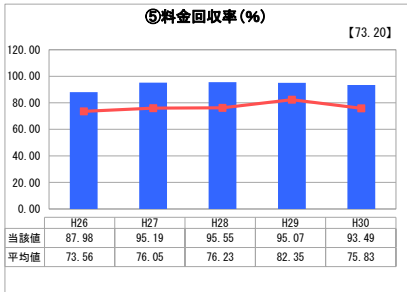
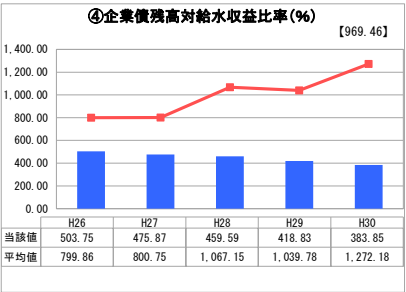
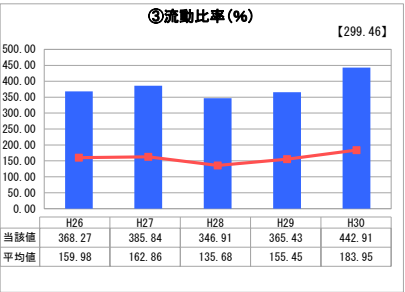
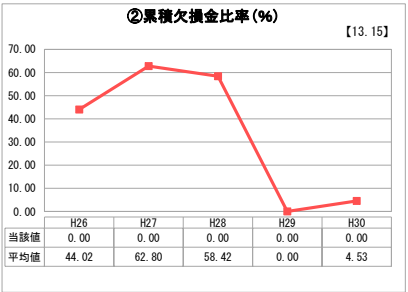
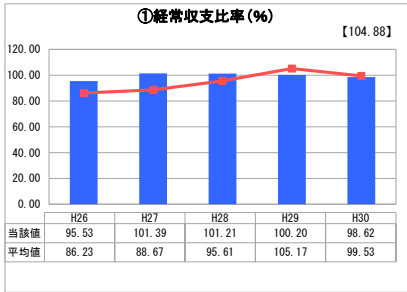
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	67.20	60.37	2,571	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,284	144.21	99.05
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,610	27.11	317.59

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

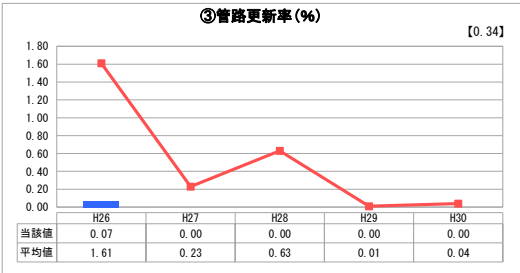
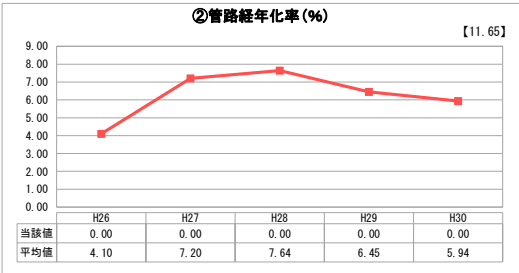
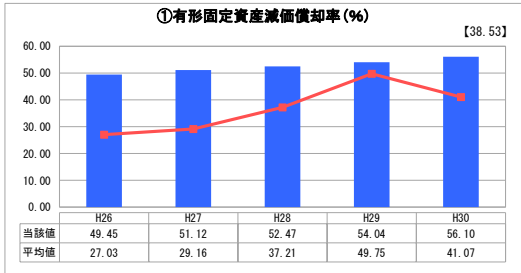
1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
- ①近年、右肩下がりの傾向になっており、突発的な修繕が増加しているため、計画的に更新等を行い、改善を目指す。
- ③④現金は増加、起債残高は減少傾向にあり、一見良好な経営に向かっているように思えるが、④の比率について、類似団体は上昇傾向であるが、当町は水道ビジョン等計画の実施が行えていないのが要因であると思われる。今後は、計画を実施していかなければならないが、同時に健全な経営状態も保てるよう努める。
- ⑤類似団体よりは高い水準であるものの、今後の計画的な更新等に備え、一層の料金収入の確保を図る必要がある。
- ⑥例年並みの水準が維持できているが、計画的な更新等に向けて、引き続き適切で効率的な管理運営に努めていく。
- ⑦加速する人口減少により、当町の水道事業も稼働率の低下から、確実に影響を受けていると考察できる。施設の統廃合、広域化等を含め計画を実施し、施設規模等の適正化を進める必要がある。
- ⑧類似団体より高い水準を保てており、ロスは比較的小さいと思われる。引き続き、適切な管理に努めたい。
2. 老朽化の状況について
- ①類似団体は更新等により償却率が低下しているようだが、当町は近年更新等を行っていない為、類似団体より減価償却率が進んでおり、一斉に更新するのは現実的ではないので、順次計画的な更新を行う必要がある。
- ③近年は、更新等を行っていない為、類似団体より低い水準となっている。頻発する災害に対応できるように、耐震管等の導入を進めていきたい。

2. 老朽化の状況



全体総括

耐用年数が迫っている固定資産が多くあり、施設の更新等の事業を大量に控えているので、効率的な維持管理に努めるとともに、料金回収率の向上を図っていく必要がある。また、水道事業は国民の生活に必要不可欠なものであるため、持続可能な運営の為に、一層の健全な経営努めなければならない。